

青森市子ども会議フォーラム2022

FOR CHILDREN ～子どもの未来に夢と希望を～

- 1 日 時 令和4年11月20日(日) 8時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市議会議場、委員会室
- 3 出席者 子ども会議委員17名、子どもサポーター3名、事務局9名
- 4 次 第 (1) 開会
(2) 市長あいさつ
(3) 私たちからの意見提案
(4) 市長総括
(5) 閉会

5 開催概要

市では、「青森市子どもの権利条例」において、毎年11月20日を「青森市子どもの権利の日」とし、この日にふさわしい活動を行うこととしています。

青森市子ども会議では、子どもが意見を表明し市政に参加する機会として「青森市子ども会議フォーラム2022 FOR CHILDREN ～子どもの未来に夢と希望を～」を、市議会議場をお借りして開催しました。

リハーサル

午前8時30分に委員会室に集まり、感想発表者など各委員の役割を確認してから議場に移動し、リハーサルを行いました。議場では、自分の立ち位置や発表のスピードなどを確認しながら本番に備えました。



開会

司会を務める高校生委員から、開会のあいさつと子ども会議の説明がありました。



市長あいさつ

あいさつでは、市長から、昨年度の子ども会議フォーラムで子ども会議委員から出された提案や意見に対する成果について説明がありました。

「Instagram を活用した情報発信」に取り組んだチームからの「初めて青森市に来た観光客でも観光施設へのアクセスを簡単にできるようにしてほしい」との提案には、「青森市観光ナビ」というアプリを紹介しました。新型コロナウイルス感染症の影響により旅行や外出を控えるかたが多かったので、アプリのダウンロード数も伸び悩んできましたが、移動制限も徐々に解除され、旅行に出るかたも多くなってきたことや子ども会議の皆さんが Instagram で紹介してくれたこともあり、前回子ども会議フォーラムを開催した去年の11月から今年10月までの1年間で1,022人ものかたにアプリをダウンロードしていただきました。今後国内外からいらっしゃる多くの観光客に、このアプリを利用して観光を楽しんでもらえると思います。子ども会議の委員の皆さんも改めてアプリを活用して、青森市内を巡ってくださるとうれしいです。

「奈良市とのオンライン交流を通して気づいたこと」について発表してくれたチームからの、「子ども目線で青森市の魅力を発信するため、子ども会議の公式 Instagram に投稿した内容を青森市の公式 Instagram でも紹介してほしい」との提案には、青森市の公式 Instagram でも子ども会議のみなさんが青森市の魅力を発信するたくさんの投稿の中から、青森市観光ナビアプリのほか、三内丸山遺跡、北のまほろば歴史館そして青森の食である煮干しラーメンの紹介をさせていただきました。Instagram を見た皆さんからは、11月4日時点であわせて909件もの「いいね！」をいただいています。きっと子どもだけではなく、多くの大人の皆さんにも青森市に行ってみてみたいと思っていただけたと思います。素晴らしい提案をありがとうございました。



私たちからの意見提案（PCAPCA グループ）

〈活動をはじめたきっかけ〉

PCAPCA グループは、子ども会議でやってみたいこと・取り組みたいことについて話し合ったとき、「青森市の地域ごとの魅力を紹介する」、「穴場スポットの調査」、「ねぶたん号の動画作成」など地域活性化に興味をもったメンバーで構成されています。

また、グループ名の由来は、「青森市の魅力発信」を意味する「Presentation of the Charm of Aomori City」の頭文字である P・C・A をもじって決めました。グループ名である「パカパカ」は馬の足音の擬音語として使われることから、馬のキャラクターを新たに作成し、それを活用して青森市の魅力を発信することにしました。また、青森市の魅力発信を行うツールとしては、昨年度開設した

子ども会議の公式Instagramを引き続き活用することにしました。たくさん出た候補の中から、「王道観光スポット」と「子ども会議で行ったことのない場所」の2つをメインに紹介、情報発信を行うことに決めました。



〈これまでの活動〉

○王道観光スポット

「王道観光スポット」では、青森市の観光施設をまわるシャトル de ルートバス「ねぶたん号」を使って行ける施設を紹介することにしました。ねぶたん号は、街中でパッと目をひく赤いバスで、ほとんどの委員が見たことはあるけれど、実際に乗ったことはありませんでした。そこで、実際に観光客の目線を体験するために、ねぶたん号に乗って観光施設に行くことにしました。バスの時間やルート、各施設の営業時間や入館料などの情報をインターネットで調べると、市ホームページにこれらの連携施設を紹介するチラシが掲載してありました。しかし、どのような展示があるのか、どんな施設なのかは、改めて各施設のホームページを検索する必要があったので、直接各施設のホームページに飛べるリンクがあればより便利だと感じました。



あもり北のまほろば歴史館は、青森市を中心とした郷土の歴史や民俗を総合的に紹介する展示施設です。私たち子ども会議委員は、クイズラリーに参加しながら展示をまわりました。クイズは、展示をきちんと見ると答えがわかるような問題になっていて、より興味をもって見学することができました。また、昔の遊びを体験できるブースでは、時間を忘れて熱中して遊んでしまいました。

次にねぶたん号に乗って向かったのは、青森県立美術館です。青森の有名な画家である奈良美智さんなどの作品が展示されている常設展のほかに、時期によって展示が異なる企画展も見学しました。時期によって展示が変わるので、何回でも飽きずに行ける場所だと思います。また、館内にあるおしゃれなカフェ「4匹の猫」にも行きました。私たち子どもならではの食レポも投稿したので、ぜひInstagramをご覧ください。

○子ども会議で行ったことのない場所

今年は青森市の歴史に興味がある委員が多かったため、歴史に関する施設もたくさん候補に上がりました。その中でも、去年の子ども会議でも意見が出たけれども結局行けなかった「八甲田山雪中行軍遭難資料館」や、これまで子ども会議であまり取り上げてこなかった「浪岡地区」の魅力を紹介することに決めました。

八甲田山雪中行軍遭難資料館は、子ども会議委員の中でも八甲田山雪中行軍遭難事件について知らない人もいたので、この事件を知ってもらうために行くことに決めました。どこでもいつでも騒がしい私たちですが、見学している間は、口数がめっきり少なくなるほど、真剣に見入ってしまいまし

た。遺品などを見ると、「本当にあったことなんだ」という実感がわいてきて圧倒されました。県外の方だけでなく、ぜひ市内のみなさんにも来てほしいと思いました。

「浪岡城跡」は、名前のとおり城そのものが残っているわけではありません。お城があった場所を巡ることができるのですが、本当にとても広くて、何も知らない観光客が巡るとなるとパンフレットを見ても少し難しいと思います。また、説明等の看板がなかったため見どころやおすすめがわかりませんでした。情報を見ながら見学できれば、浪岡城跡についての理解が深まると思ったので、浪岡城跡を訪れた見学者がどのような遺跡であるのかイメージしやすくするため、各所に説明用立て札や説明用の二次元コードを備え付け、それを見たり読み取ったりしながら見学できるようにしたいと思います。



中世の館は、浪岡城跡から出土した遺物などの資料を展示している施設で、浪岡城跡のすぐ近くにあります。浪岡城跡の復元模型があったので、それを見ながら先ほど見学した浪岡城跡を思い出し、中世の生活について、想像を膨らませました。

また、展示施設の隣には実際に小学校として使われていた旧浪岡小学校があります。赤いじゅうたんが敷かれた木造の廊下や階段がとても立派でした。また外観も、ジブリ映画のなどの回想シーンにありそうなレトロで素敵な建物でした。今回初めて中世の館を訪れた委員も多く、市ホームページで調べたときにはわからなかった魅力がたくさんありました。昔の校舎ならではのインスタ映え写真が撮影できるスポットだと思うので、SNSを積極的に活用することで来場者が増えるのではないかと思います。

昼食は、浪岡で人気の老舗食堂であるマルミ・サンライズ食堂に行きました。浪岡地区に住んでいる委員が普段からよく行く食堂で、地元民からずっと愛されています。お店の一番人気はラーメンで、私たち子ども会議委員もほとんどがラーメンを注文しました。あっさりラーメンは、いまはあまり見ないお魅が入っている昔ながらのラーメンで、あっさりとしていてもしっかりと煮干しの存在が感じられ、美味しかったです。

○豊田市とのオンライン交流会

また、青森市の魅力だけではなく、自分の意見を発信する取組として、10月に豊田市子ども会議と「子どもの権利」をテーマにオンラインで意見交換を行いました。「身近な権利侵害」や「いじめ問題」のほかにも、「校則は青森市と豊田市では、どちらのほうか厳しいのか」など、自分たちが気になる内容について話し合うことができました。校則の厳しさは同じくらいとの結論でしたが、豊田市では生徒会が主体となって校則の見直しを行っているなど先進的な情報を得ることができました。豊田市とのオンライン交流会で学んだことをこれからの活動に活かしていきたいと思いました。



以上の青森市の魅力発信に関する活動を踏まえ、私たち PCAPCA グループから 3 つの意見提案があります。

- ① 観光客の利便性を高めるため、青森市ホームページにある「ねぶたん号」連携施設の紹介チラシに加えて連携施設のホームページにリンクを貼ったページも作成してはどうでしょうか。
- ② 浪岡城跡を訪れた見学者がどのような遺跡であるのかイメージしやすくするため、各所に説明用立て札や説明用の二次元コードを備え付けてはどうでしょうか。
- ③ 中世の館の魅力を発信するため、SNS への掲載を積極的に活用してはどうでしょうか。

市からの回答

(小野寺市長)

②の質問についてお答えします。子ども会議の皆さんが訪れた「浪岡城」は、西暦 1460 年頃から 1578 年までの間、浪岡北畠氏によって治められており、その城跡は東西 1,200m、南北 600m の規模を誇ります。幅 20m、深さ 5m ほどの二重堀で分けられた内館、北館、東館などの 8 つの館が扇のように広がる形が特徴で、昭和 15 年 2 月 10 日に国史跡に指定されました。昭和 44 年からは遺跡の本格的な調査と整備環境が始まり、平成 10 年には、城跡案内所を開設し、城跡内を見学できるようになりました。

城跡を訪れる見学者が、史跡全体をイメージしやすいように散策マップを案内所で配付しているほか、希望者はボランティアガイドの説明を受けながら見学することができます。最近では、個人で自由に見学することが増えてきていることから、今回いただいたご意見を参考に、各館の表示に二次元コードを掲示し、スマートフォンやタブレットを利用し、ホームページを閲覧しながら遺跡を見学できるような工夫をしていきたいと考えています。

(都市整備部 清水部長)

①の質問についてお答えします。青森市シャトル・ルートバス「ねぶたん号」は、新青森駅、青森駅及びフェリーターミナルなどの市内の交通拠点や観光施設を結ぶルートを運行するバスです。「ねぶたん号」のルートの中でも、新青森駅と三内方面を結ぶルートや、青森駅とフェリーターミナルを結ぶルートは、市営バスなどの他のバスとは競合しない独自のルートであり、本市を訪れる年間約 600 万人の観光客の移動手段の一つとなっています。

ご提案いただいた青森市ホームページの「ねぶたん号」ページから各観光施設へリンク設定することについては、観光客にとって、旅行前の情報を集める際に、非常に便利になる、利用者目線での素晴らしいご提案と思います。現在、「ねぶたん号」のページに「観光施設のバナー」及び簡単な施設紹介を掲載し、他の検索サイトを經由しなくても、そのまま各観光施設のホームページにアクセスできるよう、各観光施設と調整しています。今回のような利用者目線のご提案を受け、改善していくことで、より良いものにしていきたいと考えていますので、ぜひ、皆さんの家族や友人にも「ねぶたん号」に乗っていただき、気づいた点をフィードバックしていただくとともに、子ども会議を通じて「ねぶたん号」について情報発信していただければと思います。



(教育委員会事務局 小野部長)

③の質問についてお答えします。「青森市中世の館」は、浪岡城跡の発掘調査による貴重な文化遺産や、郷土の歴史を伝えることを目的に平成4年8月に開館しました。教育委員会では、展示を通して、「郷土の歴史に驚き、感動する」、「郷土の歴史を経験し楽しむ」ことによって、ふるさとの再確認をしていただきたいと考えています。

現在、青森市では、公式のホームページのほか、Facebook や Twitter、Instagram を活用して、本市の様々な情報を、青森市のみならず、幅広い年齢層や多くの地域の方々に向けて発信しています。今回ご意見をいただいた中世の館についても、これらの SNS を積極的に活用して、貴重な出土遺物の解説付きでの紹介や、アフタヌーンコンサートなど幅広い方々に楽しんでもらえるイベントの告知など、その魅力の発信に努めていきたいと考えています。子ども会議の皆さんの Instagram にもぜひ、掲載していただき、中世の館の魅力発信にご協力いただきたいと考えています。



回答を受けての感想

- ・ねぶたん号に関する市のホームページを修正してくれるということで、ありがとうございます。
- ・関連施設のリンクを貼ってくれることで、観光客だけではなく、学校で青森市について調べるときも楽になり、市内外の人を問わずとても便利になると思います。
- ・浪岡地区の施設についても、SNS での発信により、活性化していけばいいと思います。



私たちからの意見提案 (EE チーム)

〈活動をはじめたきっかけ〉

EE (Event Enjoy) チームは、年度当初の話し合いで、イベントの企画開催・参加に興味を持ったメンバーで構成されています。私たちは青森市の「困った」を「楽しい」へ変えるため、自分たちの手でイベントを企画・運営し、“じゃわめぐ青森市”に向かって、参加する子どもたちもみんな一緒に「発進」することを目標に活動しています。

〈これまでの活動〉

○スポーツイベントの開催

まずは、その第一歩として10月に「Enjoy! 秋のスポーツイベント～心も体もリフレッシュしよう～」を企画・運営しました。



このイベントを企画したきっかけは、ニュースで青森県は全国と比較して肥満傾向の子どもが多いことを知ったほか、体力水準も全国に比べて低いことがわかり、「なんとかしないといけない」、

「これを“楽しい”に変えられないか」と思ったことです。この青森市の「困った」のひとつである「肥満傾向の高さ」と「体力水準の低さ」の要因として、「子どもの運動する機会の減少」があるのではないかと考えました。例えば、子どもの定期的な運動の機会である学校の部活動がクラブ化したことで、自分の行いたいスポーツのクラブチームがどこで活動しているのかななどの情報がわかりづらく、その結果クラブに参加していないといった運動する機会の減少です。

また、スポーツする機会として、市が行っているスポーツイベントはどうか、と話し合ったところ、実際に参加したことがある委員はいませんでした。なぜ参加したことがないのかを考えると、そもそもスポーツイベントの情報を得る機会が少ないために、どんなことをやっているのか、いつやっているのか分からないという意見がありました。

このため、イベントチームでは、スポーツイベントの企画・運営・広報などを経験することにより、子どもの運動の機会が減少している中で、どのような企画や広報をすると子どもたちが気軽に参加し運動できるのか体験することにしました。

“どのようなスポーツイベントであればみんなが楽しめるのか”を第一に話し合い、イベント名も「Enjoy! 秋のスポーツイベント～心も体もリフレッシュしよう～」に決まりました。企画では、参加した子どもたちみんなの“体を動かすきっかけ”となるイベントにすることを目標に、体育の日がある10月に開催すること、開催場所は、市民体育館や市民センターなどの体育館も考えましたが、「自分たちが通っている小中学校の体育館を使用することで、より多くの子どもたちが気軽に参加できるのではないか」という意見を踏まえ、子ども会議委員が直接甲田中学校の先生に相談して日程を調整し、10月23日（日）に開催することに決定しました。

イベントで実施する種目について話し合ったところ、様々な意見がありましたが、「天気に左右されずに楽しみたい!」ということで屋内スポーツに限定しました。その中から、小学生から高校生までみんなが楽しめ、大人数が参加できるドッジボールや色おに等に決め、委員から強く希望があったバドミントンやモルックを追加して、バスケットボール・バドミントン・ドッジボール・モルック・スポーツリバーシ・スパイ鬼ごっこ・色おに・けんりはかせを探せ（宝探しゲーム）の8種類を2コートに分けて40分ずつ行うことにしました。



次に、各スポーツのルールをまとめたポスターや各学校に配付するチラシを作成しました。ルールは小学生でも楽しめるように細かいルールを省略して、制限時間の設定やオリジナルルールを追加するなどの工夫をしました。チラシは、「スポーツの秋」ということで秋をイメージして暖かく親しみを持てるようなデザインを、パソコンが得意な委員が力を合わせて作成しました。

このイベントにはたくさんの申込があり、当初予定していた定員を急遽増やしましたが、それでもすぐに埋まってしまい、申込を断らざるを得ない人がいたことが残念でした。初めは30名の定員も埋まるかどうか心配する声が多かったですが、予想とは反対にたくさんの人に「参加したい」と思ってもらえたことが分かり、とてもうれしかったです。

また、このイベントの成果を次につなげるために、参加者へのアンケートも行いました。このイベントの一番の目標であった「体を動かすきっかけづくり」としては、普段運動していなかった人が「家に帰っても身体を動かしたい」に対して「とても」、「わりと」、「ふつう」と回答してくれました。否定的な回答がなかったことから、普段体を動かしていない人たちの意識を変えることができたのだと思います。このことが、このイベントの一番の成果でした。また、「イベントは楽しかった？」という質問に対しては、97%の参加者から楽しかったと回答があったほか、「また子ども会議のイベントに参加したい？」という質問に対しては、100%の人が肯定してくれました。

ただ、「子どもの権利条例」を知っていますか？という質問には、「知らない」と答えた人が67%と多かったので、これからの自分たちの活動の中でも積極的に発信していかなければならない部分だと感じました。子どもの権利に関して、これからトークイベントを開催しようと企画中です。子どもの権利についてもっと身近に感じてもらうとともに、自分事として考えてもらえる良い機会となるように企画していきたいと思えます。

秋のスポーツイベントでは、小中学生が団結したり、小学校から高校生までが同じスポーツ種目に参加したりするなど、学年を超えた交流をすることができました。また、ゲームにキャラクターを活用したことで、けんりはかせや子ども会議の認知度も高まったと思えます。

○YTK とのオンライン交流会

ほかに、他都市の子ども団体とのオンライン交流も行ったので、報告します。8月27日に神奈川県川崎市にある YTK（横丁楽しくしよう会）という子ども団体とオンライン交流会を開催しました。YTK は「こどもゆめ横丁」を運営し、より盛り上げようと活動している団体で、スタッフと子どもたちが一緒になって会議やチラシ作成、説明会の開催などを行っています。

こどもゆめ横丁では、実際に本物のお金を使った“本気のごっこ遊び”をしており、子ども夢パークにある大きな広場に子どもたち自身の手で廃材などを利用してつくったお店を構え、自分たちで考えたオリジナル商品を、自分たちで値段を決めて売っています。売り上げの利益から「横丁税」を納め、それを活用することで夢パークの中で実現したいことをかなえているなど、子どもの自主性がとても高い活動であることが分かりました。

このようなオンライン交流会の中でも、昨年度の子ども会議フォーラムで小野寺市長がおっしゃっていた、「青森市のファン」を1人でも増やしていけるように、青森市の魅力ある情報を発信していきたいと思えます。

イベントチームでは、これからも「誰でも楽しめる」、「楽しさに変える」ことを第一に考え、“じ



やわめぐ青森市”に向かって進んでいきたいと思っておりますので、応援よろしく申し上げます。

最後に、イベントチームが取り組んだスポーツイベントの企画を通じて気づいたことについて、私たちから3つの提案があります。

- ① 子どもの運動不足解消につなげるために、各学校を活動場所としているスポーツクラブなどの情報を集約して青森市のホームページで紹介し、子どもたちが参加しやすい環境を整備するのはどうでしょうか。
- ② 市が企画したスポーツイベントを市のホームページや SNS を活用して紹介し、興味や関心のある子どもたちが情報を入手しやすいようにするのはどうでしょうか。
- ③ 子どもたちが気軽に地域でスポーツができるように、休日に小中学校の体育館を開放してはどうでしょうか。

市からの回答

(小野寺市長)

①の質問についてお答えします。小学校においては、少子化に伴い、1つの学校では団体チームを結成できない学校が増えてきていることなどから、子どもたちや保護者のニーズに応じたスポーツ・芸術文化等の環境整備を図っていくために、学校が運営する部活動から、家庭や地域等が主体となって運営するクラブへの移行に取り組んできました。

また、運動不足の解消や子どもの頃からの健康的な食習慣づくりを進めていくため、平成30年度から、食育チャレンジプログラムを実施しています。各学校においては、1日1時間程度の運動ができるよう、中休みや昼休み等に運動に親しめる機会を確保しています。例えば、油川小学校においては、市が行うダンスワークショップに参加し、その内容を教育活動にも取り入れ、授業が始まる前やクラブの時間にダンスを行ったり、浪館小学校では、「浪リンピック」と名前を付け、休み時間に廊下や教室でできる運動メニューを楽しみながら取り組んだりしています。

また、放課後の活動については、部活動からクラブへの移行に伴い、保護者や地域が中心となって、クラブを運営し、各競技団体や連盟、スポーツ少年団に加盟し、学校の体育館やグラウンドでクラブとしての活動を行っています。これらのクラブ等の情報については、各クラブから学校に対して、バスケットボールや軟式野球、バレーボール、サッカー等、保護者や地域の方々が中心となって運営するクラブの案内・水泳やダンス等、企業が運営している様々なクラブの案内やイベントのお知らせが届いており、各校では、児童の皆さんが安全に無理なく参加できるものを校内の掲示板等で紹介しています。

子ども会議の皆さんからご提案いただいたホームページへの掲載等について、現在、部活動から移行されたクラブ及び学校との関わりがあるクラブ等が市内で67クラブありますので、そのクラブについてホームページ等で情報発信し、小学生の皆さんが、幅広くクラブ等の情報を得られるよう整備していきたいと思っております。

(経済部 横内理事)

②の質問についてお答えします。市では、市民の皆さんが気軽にスポーツに楽しめるよう、関係団体と連携し様々なスポーツイベントを開催しています。主なイベントとして、4月には「あおもり桜マラソン」、8月には「ダンス・デイキャンプ」、9月には「むつ湾サイクルロゲイニング」、1月には「青森市小学生カーリングチャレンジカップ」など、四季を通じて、大人から子どもまで幅広い世代の皆さんに楽しんでいただいています。これらスポーツイベントの開催に当たっては、多くの皆さんに参加してもらうため、様々な方法で情報発信しています。具体的には、「広報あおもり」や学校を通じたチラシ配布のほか、タイムリーな情報が発信されるホームページ、Twitter、Facebook や Instagram などによりお知らせしています。また、今年6月からは新たに、市の様々な情報を発信する広報番組「Aomo Live」のYouTube 配信も行っています。



今後は、これまでの取組に加え、市や関係団体が開催するスポーツイベントの開催日時や場所、募集人数、対象年齢などをまとめた月間カレンダーをホームページへ新たにアップするとともに、イベント最新情報を SNS で発信するなど、より多くの皆さんに関心を持ってもらえるよう PR をしていきます。子ども会議の委員の皆さんには、ご家族でのチャンネル登録やフォローのほか、市が発信するイベント情報に注目していただき、友達などへのお知らせにご協力をお願いします。

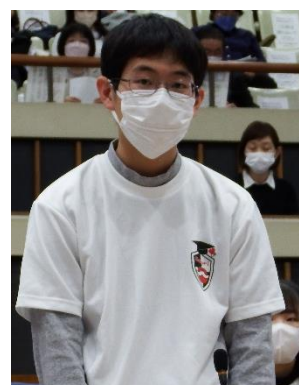
(教育委員会事務局 小野教育部長)

③の質問についてお答えします。皆さんが休日に体育館を利用する方法としては、スポーツ大会やイベントなどに利用する「一時利用」と、グループや団体のスポーツの練習などに利用する「施設開放」があります。いずれの場合も、万が一、事故やケガが発生した場合のことを考える必要があります。このことから、「一時利用」については、ケガや事故が起こった場合に対応ができる保護者や責任者の方が付き添い、利用日や時間を前もって学校に相談したうえで申し込み、校長先生の了解をとってください。

また、「施設開放」については、メンバー5人以上で、20歳以上の代表者がいるグループ・団体として、利用する小・中学校に登録が必要となり、原則として、利用する月の前の月の20日までに申し込み、校長先生の了解をとってください。去る10月23日に青森市子ども会議が開催した「秋のスポーツイベント」についても、この貸し出し方法を使って開催しました。どちらかの方法を使って、通っている学校の体育館を休日に利用できますので、学校の先生に相談してみてください。

回答を受けての感想

- ・各学校で実施されているスポーツ活動の取組を聞いて、とても楽しそうな内容だと思いました。これから実施できる学校を増やしていければいいなと思います。
- ・1年を通して市では、たくさんのスポーツイベントを開催していることがわかり、私たちも参加したり発信したりして、積極的にスポーツイベントを盛り上げていきたいです。



- ・青森市にはスポーツクラブがたくさんあることがわかり、これらのクラブの情報を得る機会を増やしていくことがとても重要だと改めて理解することができました。また、スポーツ系のクラブだけではなく、音楽クラブなど文化系のクラブの情報を得る機会も増やしていけたら、さらに利用する人が増えていくのではないかと思います。

市長総括

子ども会議委員の皆さん、素晴らしい発表と意見提案をありがとうございました。PCAPCA グループの皆さんがねぶたん号を使い、実際に観光に来た人の目線で教えてくださったこと、私もとても勉強になりました。今日皆さんから提案いただいて、ねぶたん号をもっと便利に、そしてもっと青森市の魅力を紹介できるスポットを増やせるように工夫していきたいと思います。

EE チームの皆さんも実際にスポーツイベントを企画して、とてもたくさんの方々に参加いただいたことに驚いています。ぜひまた参加したいという意見が85%もあったのは大成功だったと思います。ただ、皆さんが課題として取り上げていただいたとおり、子どもの権利条例の認知度が低いということで、もっと皆さんの取組をよりPRしていくため、活動の場を広げてください。

そして、12月に開催される「子どもの権利条約フォーラム in 那覇」では、豊田市や川崎市などの交流と同様に、全国で活動しているみなさんと同じ世代の子どもたちから、「こんなすごいことをしているんだ」と大きな刺激を受けて、我々青森市の皆さんにお返ししてもらえるととてもうれしいです。

今年1年の子ども会議の活動はまだ続きます。みなさんのこれからの活動がとても充実したものになることを祈って、ごあいさつとします。本日はありがとうございました。

以上で、子ども会議フォーラム2022が無事に終了しました。自分たちの意見や提案が青森市のまちづくりに繋がっていると感じることができ、今年度の残りの活動へのやる気が湧いてきました。これからも自分たちで何ができるかを考えながら、子ども会議の活動に取り組みたいと思います。

